

臨時号

～夢と希望のわが母校～

【本校の教育目標】



光春小だより

- 元気な子
- 思いやる子
- 考える子



練馬区立光が丘春の風小学校 校長 内木 勉

R3. 11.5

〒179-0072 練馬区光が丘7-2-1 Tel 3976-5861 Fax 5383-3592

今年度の学力調査の結果についてお知らせいたします。毎年、調査結果を分析し全教員で授業改善のためのプランを作成し、授業改善に取り組んでいます。以下は、学力調査の結果と課題および改善策です。

※数値の左の記号は、◎：都平均より+5以上、○：都平均より+3～+5、

1 全国学力・学習状況調査（5月27日実施）

(1) 国語

評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現力	国語全体（正答率）
本校	○74.8	◎73.8	◎74
東京都	69.9	66.4	68
全国	68.3	62.1	64.7

全体の正答率をはじめ、すべての評価の観点で東京都と全国を上回りました。素晴らしい結果です。保護者の皆様の日々のご協力に改めて感謝申し上げます。

ただ、正答率が他の問題に比べて低かった（解けなかった）問題＝課題もありました。具体的には、分かりやすく伝えるために図表や中心となる事項をどのような構成とするのか、加えてそれに応じた適切な文章を書くというものです。表現力という名で、いわゆるプレゼン作成の能力が求められた問題です。

この表現力の育成という課題を解消していくためには、国語をはじめとして他の教科もこの課題を意識した授業改善も積み重ねていく必要があります。そこでは、伝えるための準備（資料の選択や構成、練った文章）、効果的なICT機器の活用など、多様な要素が求められます。光が丘春の風小学校では、教科を問わずさまざまな要素を授業を通して指導し、表現力の育成に努めてまいります。

(2) 算数

評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現力	算数全体（正答率）
本校	◎83.5	◎78.9	◎81
東京都	78.0	68.3	74
全国	74.1	65.1	70.2

国語同様に全体の正答率をはじめ、すべての評価の観点で、かつすべての問題の正答率でも東京都と全国を上回りました。非常に素晴らしい結果です。

その中でも正答率が7割に満たない問題が3題ありました。その内の1題は、速さを求める式の商の意味を問われた問題です。道のり÷時間で2パターンの速さを求めた後でそれらを比べて、2つの速さについて記してある正しい文を選ぶというものです。今

後の授業では、答えを求めた上で、改めてその意味を確認する指導を行っていきます。

他の2題は、平行四辺形の面積と小数を用いた倍について与えられたデータから解法の過程を記述するものです。(基本を含めた) 考え方や解き方の過程がしっかりと身につけていなければ、難しいと思います。授業においては、答えが合っているから終わりではなく、ICT機器等を活用しながら解法の過程を示しながら答えに導けるよう指導します。また、ノートに記す際も式と答えだけではなく、言葉も入れながら考えの過程が確認できるように記すことを指導します。コロナ終息の折は、習熟度別指導、小集団の活用などを通して、考え方を友達と共有・交換しながら発展させ、解答できるよう指導していきます。

(3) 児童質問紙調査(6年生調査結果の一部です)

①「自分にはよいところがあると思いますか」

この問いに、「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」と78%の児童が答えました。都や全国とほぼ同じ(双方に上回ってはいます)結果でした。特に「当てはまる」の回答が都や全国に比べ5%以上高く、自己肯定感が高いといえます。ただ、22%の児童は、未だ自分のよいところに気付くことができないとも言えます。私たちは、学校で授業や他の時間を通して、優しく素直な心を伸ばせるよう、頑張ったことや努力したことを認め励ます(感謝も)言葉をかけています。一人一人が、自信と次への意欲をもたせるためにも指導を続けていきます。

自己肯定感、学校だけで伸ばせるものではありません。大人は、認めよう・励まそうと思っても、子供を見るとつい叱る言葉が出るということがありがちです。是々非々で、よいことは認める・褒める、よくないことは叱るということを、学校と家庭、地域で同じように子供に言葉をかけ、自己肯定感を育ててくださるようお願いいたします。

②「やると決めたことは、やり遂げるようにしている」

この問いに、「当てはまる」、「どちらかと言えば当てはまる」と76%の児童が答えました。都や全国と比べ7~8%少ないです。これと裏返しですが、「どちらかと言えば当てはまらない」、「当てはまらない」が7~8%多かったです。都・全国が16~17%のところ24%と1.5倍も多い状況です。

私たちは、児童一人一人に達成した時の喜びを味わってもらいたいと考えます。しかし、児童によっては飽きてしまったり、やり遂げることが厳しいと感じたりと、要因は様々ですが、やり遂げられなくなることがあります。学校では、各自がめあて(目標)を立てるような際には、難しく達成不可能な難易度にならないように指導します。加えて、機会をみて一人一人に寄り添った励ましの言葉をかけていきます。ご家庭でも、お子様がやり遂げられるように、見守り・応援してくださるようお願いいたします。

③生活習慣(朝食を毎日とる、同じくらいの時間に寝る、同じくらいの時間に起きる)について

いずれも大切にしたい生活習慣です。以下、回答状況です。朝食については、「している」、「どちらかといえばしている」が88%、都・全国より7%少なかったです。

就寝については、「している」、「どちらかといえばしている」が82%、都・全国より1~2%多かったです。起床については、「している」、「どちらかといえばしている」が90%、都・全国とほぼ同じでした。

就寝・起床に関しては、ご家庭での指導がよく、感謝しております。日々の規則正しい生活が学校生活、学習、安全の土台です。毎朝の朝食はその一歩とも言えます。バランスよく確実に摂るようよろしくお願いします。

- ④「情報機器の使い方について、家の約束を守っていますか」(持っていない子の7%を除いています)

「きちんと守っている」、「だいたい守っている」が74%、都・全国より0~3%多かったです。ただ、「きちんと守っている」は、都・全国より9~10%少なかったです。また、「約束がない」ご家庭が12%と都・全国を上回っていました。

学校でも、情報機器(タブレット)を配布したこともあり、情報モラルやSNSルールについて今まで以上に指導してきました。児童が事故や事件に巻き込まれないように、ご家庭でも改めてルールを決め(見直し)てお子様が守っていくことができるよう見守り、ご指導くださるようお願いいたします。

- ⑤「自分の思っていることや感じていることを言葉で表すことができますか」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

表現力やコミュニケーション能力に関わる意識についての質問です。前者は「当てはまる」児童の割合が都・全国と差がないものの(わずかに上回っています)、「どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童は10%少ない状況でした。

この回答状況から、言葉で表現することが苦手な児童が少なからずいるということです。解決方法としては、話すことと語彙を増やすことです。残念ながらコロナ下において、学校でも話し合う機会は減少しています。話す代わりに努めて書く指導も取り入れています。語彙を増やすのには、読書や新聞を読むなど(WEB上の記事も)、文章に触れることが有効と考えます。学校でも読書指導に加え、作文等の掲示など、友達の文章に触れることができる機会の増加を意識しております。ご家庭でも、活字にふれる機会を増やしていただけると幸いです。

後者は「当てはまる」児童が18%と、都・全国を9%下回りました。「どちらかと言えば当てはまる」はほぼ同じでしたが、「どちらかと言えば当てはまらない」児童が8%多く、楽しいと思わない児童の割合が高い状況です。

相手の考えや思いを知れば、人間関係が円滑になったり、新たな考えが思いついたり、説得する際に材料を見つけやすくなったりと、学校生活に限らず利点は多く、コミュニケーション力も高まります。学校では、感染防止に配慮しながらも、学級活動や道徳の授業をはじめとして、考えや意見を出して話し合う時間を大切にしています。継続していくことで、自分とは違った考えや意見を大切にする児童の育成に努めてまいります。

2 児童・生徒の学力向上を図るための調査

今年度は従来とは異なり、一人一人がタブレットを用いて質問に回答するという形式でした。東京都より結果が示されましたら、概要をお伝えします。